

香港株式市場フラッシュ

資金逃避先としてのアジア消費関連～中国市場の重要性

リサーチ部 笹木和弘

Tel: 03-3666-6980

E-mail: kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp

フィリップ証券株式会社

2025年4月30日号(4月30日作成)

“アジア消費関連企業の中でも康師傳の株価が堅調”

世界的貿易戦争が激化する中、アジア消費関連株が恩恵を受けている。ゴールドマン・サックス・グループのストラテジストは、4/2の米追加関税発表後に公表したレポートでアジアの生活必需品株への投資を推奨。その中でも香港上場銘柄の株価が年初から堅調に推移している。

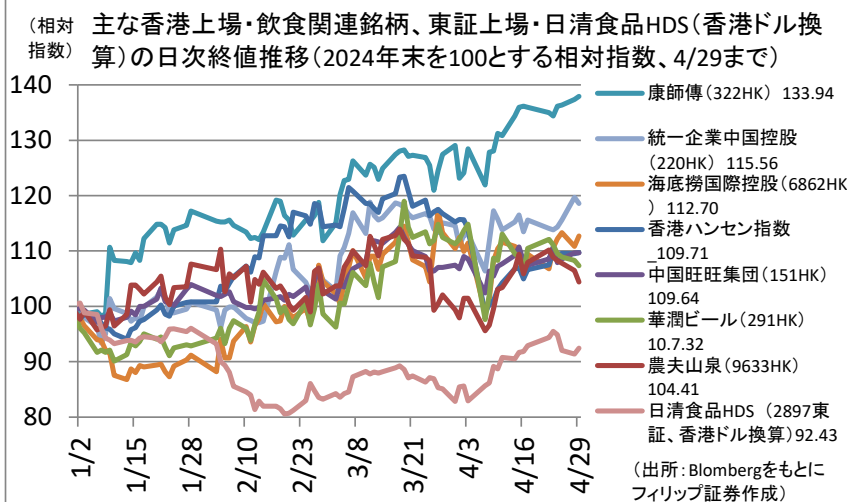
そのような中、即席麺の世界需要の約4割を消費する中国における市場シェアで約4割の首位を占める**康師傳(カンシーフ)控股[ティンイー]**(322 香港)の株価が堅調に推移している。4/29終値の昨年末からの株価上昇率は約38%とハンセン指数(9.7%上昇)を大きく上回る。同社は台湾発祥の中国食品メーカーであり、同社を傘下に置く台湾の頂新国際集団が33.41%の株式を保有している。同じ持ち株比率であるのが、日本でテレビCMを通じて広く消費者に親しまれている「サッポロ一番(味噌ラーメン、塩ラーメン)」や「カップスター」のブランドの即席麺の製造・販売を行うサンヨー食品(非上場)である。

康師傳の2024年12月通期決算は、売上高が前期比0.3%増の806億元、営業利益が同29.3%増の59.90億元、1株当たり配当金が同0.10元増配の0.33元。4/29終値における2025年12月期の市場予想PER(株価収益率)は17.87倍の水準と、香港ハンセン指数の市場予想PER(10.04倍)と比較して割安ではないものの、割高感を感じさせる水準ではない。

コンビニの「セブンイレブン」を台湾で展開し、台湾最大手の食品関連・流通企業である統一企業(ユニ・プレジデント)が中国で展開する傘下企業の**統一企業中国控股[ユニプレジデント・チャイナ]**(220 香港)や、日本でも人気のある「中国版しゃぶしゃぶ」の「火鍋」料理チェーン店で世界首位の「海底撈」を運営する**海底撈国際控股[ハイディーラオ・インターナショナル]**(6862 香港)は、4/29終値の昨年末からの株価上昇率がハンセン指数を上回るなど堅調に推移している。

“アジア消費関連の中では中国市場への重点取り組みが鍵”

中国国家统计局によれば、香港やマカオを除く中国本土の人口は2024年末で推計14億828万人。たとえば、日本の食品メーカーの日清食品ホールディングス(2897 東証)は、中国本土や香港でも高価格帯のプレミアム即席麺を中心に多種多様な人気ブランドを抱えるも、昨年末からの株価(香港ドル換算)は、同業の康師傳を大きく下回るだけでなく、その他の主要な香港上場の消費関連企業を下回る。日清食品グループの2025年3月期4-12月決算における地域別売上構成比は、日本が62%、米州地域が22%、中国地域(含む香港)が9%と、中国本土市場への重点的な取り組みが行われているとはいえない。投資家マインドが、世界的成長や輸出を追い求めることから、政府の財政支出を会計とした国内需要の底堅さを重視する方向へと転換する中、人口の大きい中国市場で活躍する消費関連株へ逃避資金が向かいやすい面があるだろう。



ハンセン指数またはハンセンテック指数構成銘柄(全96銘柄)における終値の昨年末来騰落率

前回基準日: 20250408 基準日: 20250429

順位	2024年末来騰落率・上位10銘柄	(%)	前回順位
1	華虹半導體[ファホン・セミコンダクター]	61.4	5
2	小鹏汽車	57.8	1
3	阿里健康信息技術[アリバヘルス・インフォメーション・テクノロジー]	48.8	9
4	金蝶國際軟件集團[キングディー・ソフトウェア]	44.7	3
5	中芯國際集成電路製造[SMIC]	43.9	10
6	周大福珠寶集團[チャウタイフック・ジュエリーグループ]	42.2	2
7	アリババ・グループ・ホールディング	39.6	6
8	比亞迪[BYD]	39.3	8
9	康師傳控股[ティンイー]	37.9	4
10	小米集團[シャオミ]	37.5	14

順位	2024年末来騰落率・下位10銘柄	(%)	前回順位
96	金沙中国[サンズ・チャイナ]	-33.5	94
95	East Buy Holding Ltd	-32.8	96
94	ASMP	-30.8	95
93	創科実業[テクトロニック・インダストリーズ]	-24.9	91
92	比亞迪電子(国際)[BYDエレクトロニクス]	-23.9	93
91	ニュー・オリエンタル・エデュケーション・アンド・テクノロジー	-16.9	92
90	海爾智家[ハイアールスマートホーム]	-15.9	90
89	中升控股[チョンサン・グループ・ホールディングス]	-14.8	82
88	信義光能[シンイー・ソーラー]	-14.1	86
87	銀河娛樂[ギャラクシー・エンターテインメント]	-13.7	85

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

【2025年4・5月:中国主要経済指標】

- 4月10日(木)
 - 3月消費者物価指数(CPI)<前年同月比>: 前回▲0.7%、結果▲0.1%
 - 3月生産者物価指数(PPI)<前年同月比>: 前回▲2.2%、結果▲2.5%
 - 4月13日(日)
 - 3月資金調達総額: 前回92.90兆元、結果151.80兆元
 - 3月新規人民元建て融資: 前回6.14兆元、結果9.78兆元
 - 3月マネーサプライM2<前年同月比>: 前回+7.0%、結果+7.0%
 - 4月14日(月)
 - 3月貿易収支: 前回<1-2月>+1705億USD、結果+1026億USD
 - 3月輸出<前年同期比>: 前回+2.3%、結果+12.4%
 - 3月輸入<前年同期比>: 前回▲8.4%、結果▲4.3%
 - 4月16日(水)
 - 1Q(1-3月期)GDP<前年同期比>: 前回+5.4%、結果+5.4%
 - 3月小売売上高<前年同月比>: 前回+4.0%、結果+4.6%
 - 3月鉱工業生産<前年同月比>: 前回+5.9%、結果+6.5%
 - 1-3月不動産投資<前年同期比>: 前回▲9.8%、結果▲9.9%
 - 1-3月固定資産投資<前年同期比>: 前回+4.1%、結果+4.2%
 - 3月住宅販売面積<前年同月比>: 前回▲0.4%、結果▲0.4%
 - 3月新築住宅価格<前月比>: 前回▲0.14%、結果▲0.08%
 - 3月調査失業率<前年同月比>: 前回5.4%、結果5.2%
 - 4月18日(金)
 - 対外直接投資<前年同月比>: 前回▲20.4%、結果▲10.8%
 - 4月21日(月)
 - 1年ローン・プライムレート: 前回3.10%、結果3.10%
 - 5年ローン・プライムレート: 前回3.60%、結果3.60%
 - 4月25日(金)
 - 1-3月工業利益<前年同月比>: 前回▲0.3%、結果+0.8%
 - 4月30日(水)
 - 4月製造業購買担当者景気指数(PMI): 前回50.5、結果49.0
 - 4月非製造業購買担当者景気指数(PMI): 前回50.8、結果50.4
 - 5月1日(木)
 - 4月(財新)製造業購買担当者景気指数(PMI): 前回51.2
 - 5月6日(火)
 - 4月(財新)サービス部門PMI: 前回51.9
 - 5月7日(水)
 - 4月外貨準備高: 前回3,240兆USD
- (出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL: 03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会認定アナリスト、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考としてレポートの作成者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害について、フィリップ証券も、当レポートの作成者も、責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載することを禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく表示>

・フィリップ証券または本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。